



語り継ごう 奄美の伝統文化



竿踊り(ソウ ウドゥリ) 奄美市

所在地:奄美市住用町西仲間
団体名:西仲間八月踊り伝承会

住用町西仲間集落の竿踊りは、田起こしから苗の植付け、収穫、脱穀までの一連の米作りの農作業を踊りで表現しています。両手を大きく振り上げる所作は田起こしを、腰をかがめて右手左手で苗の植付けを、手を繋いで輪を作り左回りに回る所作は風になびく稲穂を、最後の竿を大きく振り上げて回す所作は脱穀を表現しています。



亀津浜踊り 徳之島町

所在地:徳之島町亀津
団体名:亀津浜踊り保存会

亀津浜踊りは、男と女の円陣による掛け合い唄を唄いながら踊り、最初はゆっくりと元歌(打ち出し唄)を唄い、24番まである歌詞を奇数は男が、偶数を女が唄い踊ります。そしてテンポが速くなっていき、踊りの速さがクライマックスに達した時に終了する踊りです。



大和浜棒踊り 大和村

所在地:大和村大和浜
団体名:大和浜棒踊り保存会

「大和浜棒踊り」は、4人1組の4組編成で、6尺棒同志・3尺と6尺棒・鎌となぎなたの3部の構成で組み合っています。大変勇壮果敢な踊りです。現在は唄や踊りを中高生の男子も含めて伝承活動を行っています。



前野田植歌 天城町

所在地:天城町前野
団体名:前野民謡保存会

田植歌は奄美・沖縄諸島において徳之島にしか見られないもので、労働歌として田植え作業の効率化を図ること、豊作を祈願する儀礼的な祝詞としての二つの機能があると考えられています。前野田植歌は、八八八六型のいわゆる琉球型で、田植えの苦労や男女の恋情、人情などが男女の交互唄によって歌われています。



芦検稲すり踊り 宇検村

所在地:大島郡宇検村芦検
団体名:芦検民謡保存会

芦検集落で継承されている踊りです。昭和13年に皇室に献上する米を作る田(献穀田)に芦検集落が指定された際の御田植え祭にて奉納されたのが始まりといわれています。もともと唄われていた「稲すり節」と沖縄の「汗水節」を織り交ぜて作られ、踊りの前半が汗水節、後半が稲すり節となっています。別名「アム踊り」と言われ、女性のみで踊ります。



汗水節 伊仙町

所在地:大島郡伊仙町阿権
団体名:阿権青年団・婦人会

「汗水節」は、昭和12年犬伏尋常高等小学校的奉安殿落成式で、集落余興で踊られ、大センセーションをまきおきました。男女がペアになり、太鼓のリズムに合わせて、だんだん早いテンポになる踊りです。沖縄や沖永良部の汗水節とはまったく違う踊りとなり、阿権に伝えられています。正月や、集落で集まる際に踊っています。



諸鈍シバヤ 瀬戸内町

所在地:瀬戸内町諸鈍(加計呂麻島)
団体名:諸鈍シバヤ保存会

源平の戦いに敗れ、落ちのびた平資盛一行が地元民と交流を深めるために伝えたのが起源といわれています。主に旧暦9月9日、資盛が祀られる大屯神社祭で奉納されます。出演者はすべて男性で、手製のカビディア(紙面)や陣笠風の笠をつけます。棒や鎌を持つての踊りなど現在11演目を継承する、国指定重要無形民俗文化財です。



国頭ヤッコ 和泊町

所在地:和泊町国頭字
団体名:国頭芸能保存会

「ヤッコ」とは、勇ましい男性という意味で、「ヤッコ踊り」は、江戸時代の武家の供揃えである奴行列(奴ぶり)と、琉球の歌詞・曲が融合した沖永良部島独特の独自の踊りです。沖永良部島では、神祭の時に踊る「八月踊り」がありましたが、次第に「ヤッコ踊り」などが広まり、薩摩藩の役人をもてなす舞台芸能(貢物踊り)として発展し、各集落で代々踊り継がれてきました。



ショチョガマ 龍郷町

所在地:大島郡龍郷町秋名
団体名:平瀬マンカイ保存会

ショチョガマとは、アラセツの日の早朝に行われる男性中心の収穫感謝・豊作祈願の祭事名であると共に、葺き屋根の片屋根の小屋の名前でもあります。グジという男の神役が稲魂を招く祈りの言葉を唱えたあと、皆で歌いながら小屋を揺すります。小屋が倒れるとその上で八月踊りをして、新しい年の豊作を予祝します。



正名ヤッコ 知名町

所在地:大島郡知名町正名
団体名:正名ヤッコ踊り保存会

「ヤッコ踊り」は、慶長14年(1609年)の薩摩藩の琉球侵攻以降、鹿児島に赴いた島民が、大隅及び都城地方の盆踊り(奴踊り)を伝えたことに始まるといわれています。「ヤッコ」とは、勇ましい男性という意味で、江戸時代の武家の供揃えである奴行列(奴ぶり)と、琉球の歌詞(ウシデーク)・曲(エイサー)が融合した沖永良部島独特の独自の踊りとなりました。



ソーメンガブー 喜界町

所在地:大島郡喜界町中里
団体名:中里集落

ソーメンガブーは高祖祭から数えて3日目にある豊年祭りで、特設檣から投げ入れられる素麺(ソーメン)を老若男女が入り乱れて奪い合います。祭りの由来は諸説あり定かではありませんが、今や奇祭としてマスコミの取材が入るほどに注目されている伝統行事となっています。



与論十五夜踊り 与論町

所在地:与論町大字立長
団体名:与論十五夜踊り保存会

与論十五夜踊りは、旧暦3月・8月・10月の各十五日に、島民慰安と島中安穏・五穀豊穡の祈願・感謝の意味を込めて行われる奉納踊りです。由来は、花城世之主が3人の子息たちに奄美大島・琉球・日本本土の踊りを調べさせたものを組み合わせて、永禄4(1562)年に創始したと言われてます。



大島地区文化協会連絡協議会